



熱心に講義を受ける生徒たち



ストローを使って作業しました



段ボールトイレを作る子どもたちと柳原さん（中央）



同センター管理者から説明を受ける子どもたち

**7/25~8/12** 学習の不安を払拭  
**中学3年生を対象に夏期講座を実施**

町教育委員会は、町研修センターで町内の中学3年生を対象に「ながす未来塾」を実施しました。

これは、学習を始めるきっかけづくりや学習の仕方などの習得を目的に行っているもので、夏休み期間を活用して合計6日間行われました。

ながす未来塾には、町内中学校から68人が参加。学習塾「全教研」の講師が指導にあたり、生徒たちは国語や英語などの5教科を熱心に学びました。



同区の北野孝子さんが講師となり作成しました

**8/20** 区民で楽しくブローチづくり  
**下東区で布あそび教室を開催**

下東区（前田升区長）は、はっとり荘で布あそび教室を開催しました。

これは、区民の楽しみづくりや健康づくりの一環として行われており、年に3回程度開催されています。

この日は、区民約15人が参加し、綿を丸めて布で包んだものを組み合わせて、ぶどうのブローチを作りました。



**7/21~8/6** 夏に集まれ小学生！  
**長洲ふるさと塾を開催しました**

町教育委員会は、町内小学校で「長洲ふるさと塾」を開催しました。

これは、町内の児童を対象に「学ぶ」「遊ぶ」「育む」をテーマに、夏休みの思い出づくりを目的に開催したものです。

この期間では、風鈴の絵付け体験やドライフルーツを使ったハーバリウムづくりなどたくさんの講座が行われ、延べ585人の児童たちが参加し、夏の楽しい思い出を作りました。



協定書を手にする首長たち

**8/17** B&G財団の防災拠点を活用  
**玉名市・南関町と災害時相互応援協定を締結**

町は、玉名市（藏原隆浩市長）と南関町（佐藤安彦町長）と「B&G財団施設設置自治体の災害時相互応援に関する協定締結式」を行いました。

これは、町が本年度B&G財団の補助金を活用し資機材などを整備することから、災害発生時に相互に応援し、応急対策や復旧対策を円滑に遂行するために締結されたものです。

藏原市長は、「想定外の災害が発生している中で、災害に対する備えは重要になってくる。長洲町に整備される資機材などの活用には、さらに連携を図り、実効性があるものにしていきたいです」と話しました。

**7/25~27** 防災意識を高めよう！  
**腹赤小学校校区でJr.防災リーダー塾開催**

町は、腹赤公民館と清源寺公民館で、Jr.防災リーダー塾を開催しました。

これは、災害に対して自助や共助の方法を知るために行われたもので、腹赤小の3年生から6年生26人が受講しました。

この期間では、歌う防災士の柳原志保さんや町文化財保護委員の隈部壽明さん、玉名人検定名人の竹本康美さんが講師となり、段ボールを使った簡易トイレの作り方や町の歴史や文化などについて学びました。

今後、町内の全ての小学校校区で、Jr.防災リーダー塾を開催する予定です。



助成決定通知書を渡した菅原志志B&G財団理事長（左）と中逸町長（右）

**8/4** 町の新たな防災拠点整備へ  
**B&G財団の防災拠点整備に関する事業決定書授与式**

公益財団法人B&G財団（前田康吉会長）は、「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築事業」の決定書授与式を行いました。

これは、同財団が災害発生時の緊急対応・避難所運営に必要な防災倉庫の整備や人材育成に関する費用を自治体に助成するもので、全国で25自治体、県内では本町と湯前町が助成決定を受けました。

中逸博光町長は、「この事業を通じ、B&G財団が持つノウハウと知見を共有・活用し、安全・安心なまちづくりを推進していきたいです」と述べました。

**7/9,14** 町浄化センター  
**六栄小と腹赤小が施設見学**

六栄小学校（下田真壽校長）と腹赤小学校（稲田尚誠校長）は、町浄化センターを見学しました。

これは、9月10日の「下水道の日」に先立って、子どもたちに日頃の生活の中で使用している下水道のことを知ってもらおうと行われたものです。

施設見学には、腹赤小と六栄小の4年生が訪れ、町職員などから下水道の仕組みを学んだり、同センター内の見学を行いました。



練り込み技法を教える水野さん（左）

**7/31** 愛知県瀬戸市の伝統産業を体験  
**産業体験交流事業を行いました**

町は、金魚の館で「愛知県瀬戸市と長洲町の産業体験交流事業」を開催しました。

これは、本町と防災協定を結んでいる瀬戸市の伝統産業である陶芸体験を通じて、同市を「知り」、「学び」、地域産業や文化・歴史を通して交流を深めることを目的に開催したものです。

この日は、特別講師として、愛知県瀬戸市無形文化財「陶芸練り込み」作家の水野教雄さんと専門員山田司さんを招き、「練り込み」技法で金魚のデザインが入った小皿づくりに挑戦しました。

今後も瀬戸市とさまざまな事業を通じて、各分野で交流を深めていきます。